

令和8(2026)年度 中堅教諭等資質向上研修(道徳:下都賀地区)を開催しました

令和8(2026)年8月6日(木)実施
下都賀教育事務所 学校支援課

Ⅰ 研修の目的・内容

(1) 目的

「心の教育」の推進における道徳教育の重要性を認識し、道徳科の指導案の作成を通して、道徳科の特質を理解するとともに、ねらいに迫る授業づくりに資する。

(2) 会場

下野市立南河内公民館

(3) 内容

○ 主催者挨拶 下都賀教育事務所長



- 趣旨説明及び事務連絡 下都賀教育事務所 学校支援課 担当
- 班別研修 指導案作成
 - ・ねらいとする道徳的価値の確認
 - ・ねらいの設定
 - ・中心発問及びその前後の発問の設定



2 本研修で確認したこと

【本研修の趣旨等について】

- 道徳教育は、日常的な生活場面を含むあらゆる教育活動の中で、道徳的行為が身に付くように道徳的価値を意識させながら繰り返し指導することが大切である。
- 道徳科の目標には、道徳性を養うために必要な学習の過程が明示されている。

道徳的諸価値についての理解を基に
「自己を見つめ」
「物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え」
「自己(人間として)の生き方についての考えを深める」
学習を通して、



道徳的判断力、心情、実践意欲、態度という四つの内面的資質を育てる。

- 道徳科の授業をより充実させるには、「ねらいに迫る」ことが重要である。
→「児童生徒にどのような心を育てるのか」を明確にして授業を展開する。

【※参考】

「令和8(2026)年度版下都賀地区学校教育の重点」P.7
「栃木県道徳教育ハンドブック」P.20

3 本研修で学んだこと(参加者が記入した「研修の振り返り」から)

【授業づくりに関すること】

- ・ 学習指導要領やハンドブックなどを行ったり来たりしながら教材と向き合い、児童の姿を思い浮かべながら行う教材研究の有意義さや楽しさを改めて感じました。
- ・ 本日の研修では、ねらいや発問を考えるにあたって、児童の実態を理解することが重要であることを改めて学びました。そして、授業を通して期待する子どもの姿を具体的に思い描きながら授業を構想することの必要性を実感しました。
- ・ 児童の実態を踏まえた上でどのようにねらいを立てるのか、またねらいの達成のためにどのような発問をするのかについて深く考えることができました。授業の展開を考えるなかで、児童に深く考えさせたい内容とねらいを行ったり来たりしながら、ねらいや発問を再考していく大切さを感じました。
- ・ ねらいに迫る授業づくりのためには、まず学習指導要領をよく読み、指導内容を正確に捉えることが大切であると分かりました。今後は、教材の展開だけに目を向けるのではなく、児童にどのような価値について考えさせたいのか明確にした上で授業していきたいと思いました。

【班別研修に関すること】

- ・ 学習指導要領の内容項目をしっかりと読んだ上で、ねらいを考える大切さを改めて学ぶことができました。難しいところを先生方と共有し、ねらいに向かって授業をする方法を一緒に考えることができ、とても有意義な話し合いができました。
- ・ グループの先生方と協議を重ねることで『この方法もやってみよう』と思えることがいくつもありました。授業に向けて、様々な方法をチャレンジしていきたいと思います。
- ・ 道徳の教材について、他校の先生方、指導の先生方と協議をして「ねらい」をじっくり考えることができました。児童に考えさせたいこと、内容項目など様々なことを踏まえて、ねらいや中心発問を考えることが大切であると改めて感じました。一つに教材についてこんなにじっくり考えられることはなかなかないので、とても充実した研修になりました。
- ・ 研修を通して、道徳の指導案について深く考えることができました。特に、ねらいについて先生方と協力し、たくさんの意見を交わし、今までで一番深い議論になったと思いました。また、道徳のねらいや中心発問を考えることが、楽しく感じました。自分のクラスの生徒を思い浮かべながら作っていると、授業をやったときの生徒の表情や反応が楽しみだと思いました。

【ミドルリーダーとしての役割に関すること】

- ・ 研修を通して、効果的な中心発問の精査や対話を深める工夫が児童生徒の多面的・多角的な思考を引き出す鍵になると再確認しました。また、自身の授業改善にとどまらず、校内における道徳教育の推進や後輩教員への指導・支援に主体的に関わる重要性を学びました。
- ・ 普段、同僚の先生方と1つの授業について話し合ったり、教材研究をしたりする機会はほとんどなかったが、今回は同期の先生と一緒にねらいや発問を考えたり、指導案を作成したりして、有意義な時間となりました。中堅教員として、今度は学校の若手の教員を交え、このような教材研究ができる機会を作っていきたいと思います。
- ・ 今回の研修を通して、同世代の先生方と一つの授業について時間をかけて「ねらい」や「中心発問」について考えることができたのは、有意義な時間でした。また、中堅として、自校において学んだことを還元することが大切であることも感じました。今後、仲間と協議すること、若手教員をサポートすること等、積極的に取り組んでいきたいと思います。

